

No. 1523

「エゴン・シーレと ウィーン世紀末展」

3月1日から4月1日まで「エゴン・シーレとウィーン世紀末展」が東京・新宿の伊勢丹で開かれています。十九世紀末のウィーンを代表する23人の画家の150余点が展示されています。なかでも19世紀末から第一次世界大戦にかけてのウィーンの虚飾と退廃の上に築かれた文明社会を絵の世界から引きはがし社会に強い衝撃を与えたエゴン・シーレの作品50点が注目されています。その作風は感傷的で暗いもののデッサンにはひたむきな情緒があり28才で閉じた生涯と共に現代の若者にも共感を呼んでいるようです。

ふ や そ う 緑 を

— 東 京 ・ 埼 玉 —

3月から5月まで全国的に緑化強調月間です。都内のデパートでの菜の花プレゼントにも春を待つ人々の長い行列がつづいていました。

東京都でも緑をふやそうと「緑の倍增計画」に取り組んでいます。敷地が道路と接する部分、接道部を今迄のブロック塀や、フェンスから緑地帯や生け垣にして緑の壁をふやそうというもの。

杉並区にあるもと蚕糸試験所あとに造られている蚕糸の森公園でも道路と歩道の接道部に植木をうえ公園の自然さと緑を生かす設計がされています。

一方、埼玉県川口市安行にある埼玉県植物振興センター。5年前までは業者中心に植物や造園について指導していたのを現在はセンターを市民にも開放して植物全般の相談にのっています。

又庭づくりやプロをめざす人達にも実地の指導が行なわれています。毎週1回の指導日には熱心な生徒さんで忙しいとのこと。都会に家庭に緑をふやして豊かなうるおいのある町づくりを一層進めたいものです。